

## 〔東京桑野会〕

### 東京桑野会総会そして

### 安積高等学校OB・OG 合唱団演奏会

東京桑野会副会長

小林 伸久

(八十四期)

今年、母校創立130周年の年に当たります。私はそれにちなんだ二つのイベントに参加しました。

まずは、平成二六年六月二一日椿山荘で開催された東京桑野会。

通常の年と異なり、記念の年であるため、記念式典・講演会の開催を決定。平成二十五年十一月の幹事会を皮切りに、斎藤英彦会長代行(六十九期)、浅川章副会長(七十六期)、和田正哉副会長(七十七期)、櫻井淳副会長(七十八期)、上石利男副会長兼幹事長を中心に、あと十人ほどの若手も加えて何度も幹事会を招集しては打合せを重ねましたが、なかなか思うようには捗りません。

特に、記念講演は候補者が何人もありません。

たが、具体的に動いてみるとスケジュール調整がうまくいかず、難航しました。そこで、斎藤会長代行が腹案として持っていた、切り札案を採用しました。

それは、母校の先輩である朝河貫一について『朝河貫一と現下の国際情勢』と題して、古川清会長に、朝河貫一博士顕彰協会会長としての立場から講演をしてもらうことでした。なかなか聞けない話であった事、そして、時期を得ていたこともあり好評を得ました。

もう一つの課題が、懇親会をいかに盛り上げるかということでした。これも様々な意見が出て、応援団、ブラスバンド、合唱と検討しましたが、ブラスバンドは音が大き過ぎるということと却下となり、私が働きかけた「合唱部OBで校歌を歌う」案も、現在現役の指揮者としていくつもの合唱団のタクトを振る、鈴木茂明君(八十四期)にお願いしたのですが、富山でのコンサートとブッキングしていたため断念せざるをえませんでした。結局毎年お願いしている大矢真弘副幹事長(八十八期)に応援歌のリードをお願いし、若手を壇上上げて紹介するというパターンでそれなりに盛り上がりました。更に、最近の母校でみられる「大進撃」という応援団のイベントを映像と音で再現することを



考えていたのですが、動画を映写すると十万も掛かってしまうので、音声のみの迫力に欠ける紹介となってしまいました。

ここからは番外編。八十四期は毎年総会終了後、目白駅前の「やるき茶屋 目白店」で二次会を開催しているのですが、今年も同様に開催

しました。実はそこに安積の後輩を一人呼んでいました。時間が間に合えば東京桑野会の懇親会で歌って貰うつもりでしたが、間に合わなかったので二次会に来てもらったという訳です。平成二十年の懇親会では、シンガーソングライターのパイナップル独りウエイこと橋本真一君（百八期）に歌って貰った実績がありますので。

その店でまっついてくれたのは、シンガーソングライターのOmanoさんこと植竹さおりさん（百二十二期）。そこに郡山から来てくれた勝又俊博君（八十四期）を始め八十四期は八名、他に若手も三名加わって総勢十二名の宴となりました。アルコールを勧めましたが、いわきから車で来ているのでということで、ソフトドリンクでお付き合い頂きました。彼女の持ってきていたCDを、理解ある先輩達がこぞって購入してあげたの言うまでもありません。

二つ目は、平成二六年七月一九日に郡山市民文化センターで開催された合唱部のOB・OG合唱団演奏会。

現在、安積高校の合唱団は、安積高校と福島高校、磐城高校、会津高校の四校で連合定期演奏会として開催され、今年で十一回目。安積高校合唱団としては三十六回目の定期演奏会でした。

安積高校創立130周年記念事業参加行事  
〈会津高・磐城高・福島高・安積高〉  
第11回 福島県四校連合定期演奏会  
&  
第36回 福島県立安積高等学校合唱団定期演奏会  
&  
創立130周年記念OB・OG合唱団演奏会

*dolce*

# 千詩万響



主催 福島県立安積高等学校合唱団

事前練習も二度ほど組まれていたのですが、仕事の関係でそれらには出られず、当日の午前中の練習とリハを経て本番という強行スケジュールでした。曲目は堀口大學作詞、清水脩作曲の男声合唱組曲『月光とピエロ』より、「I月夜」と「V月光とピエロとピエレットの唐草模様」です。高校在学時にかなり練習した曲だったの

で、当日勝負でも何とかなると思っていたのですが、練習を始めてみると細かい点はすっかり忘れていることを思い知らされました。指揮者の荒井一成君（八十五期）は一年後輩で、高校時代には一緒に練習した仲間でした。彼の丁寧な指導で何とか思い出し、本番にこぎつけ歌い終えた次第です。私たちの頃は男子校でしたか

ら、当然男声合唱しかありませんでしたが、この日は混声合唱も披露され、『唇に歌を』という曲を歌っていました。参加者の中では、作田秀二さん（七十三期）と私は、『月光とピエロ』のみを歌って、降壇しました。混声も誘われましたが、とても短時間で歌えるようになるものではありません。

歌い終わって、後輩である現役の安高生の楽しいステージを見ると、隔世の感は禁じ得ません。それはおそらくステージを見に来ていた同期の男子校時代の合唱部仲間である柳沼秀俊君、石井直人君も同感だったのではないかと思います。

終了後、柳沼君とは一緒に、居酒屋と今年発見した朝日町のフォーク居酒屋で、飲んで、食べて、歌って打上げをしました。終わった頃には日付が変わっていました。

後で葉書を貰って驚いたのですが、今年の二月に両国国技館で開催された墨田区主催の「5千人の第九コンサート」でたまたま席が近くて一緒に歌った須賀川在住の関さんが見に来ていたとの事でした。来年の両国国技館での第九に参加申込をしたので、また一緒に歌いたいですねとの内容でした。もちろん、私も例年で三回目となりますが、ライフワークと考えているの

で参加の申し込みをし、他のふくしま第九「すみだ歌う会」の方々との再会を楽しみにしているところです。

結びに、安積高校卒業生の皆様へ。

ともかくも、東京桑野会の最大課題は会費収入が少ないことで、その為にはいかに若手を総会に来てもらうかという事に尽きます。私も、参加し始めて一七年になりました。最初は一人もいなかった同期も、今は十人程度となり、別途「野志の会」と称して八十四期だけの親睦会も開催しておりますが、基本は東京桑野会総会にありとの思いは今も変わりません。来年は目の椿山荘でお会いしましょう。

追記、私が今日このように日々元気にしているのは六年前に現在勤務する孝和建商という会社に引っ張ってくれた小黒邦雄会長（七〇期）のおかげであり、大いに感謝しております。事を記してペンを置きたいと思います。

